

一衝重日別廿前

十日隱岐　十一日佐渡　十二日飛驒

一露顯日饗

駿河

一內臺盤所燒飯

安藝

參賀進獻

〔台德院殿御實紀五十二〕元和六年六月十八日、都にてはけふ女御○後水尾后入内し給ふ○略中
廿二日、内にはけふより廿四日迄、攝家清華の人々あるは法親王たち女御の新殿へ参りあひ、お
もひおもひに御祝ひのもの奉りことぶかる。權中納言の局萬にうけはり沙汰す。廿五日、武家の
輩どりく御祝物さゞぐ、酒井雅樂頭忠世、土井大炊頭利勝はじめ、内にも女御の御方にもさ
げものすれば、兩傳奏御使して、この輩にも御大刀を給はり、女御の御方よりも金に御衣そへ
てかづけられ、女院よりも時服下さる。

〔享保集成絲綸錄三〕寛文九酉年閏十月

一來月廿一日、女御○靈司房子御入内ニ付而爲御祝儀以使者此書立之面々可被差上之旨、自老中
被相觸之所謂、

尾張中納言殿義光

紀伊中納言殿貞光

甲府宰相殿重綱

館林宰相殿吉綱

水戸宰相殿閑光

松平加賀守利綱

松平越前守通光

井伊掃部頭隆直

右者禁裏江

御大刀御馬代黄金三枚ヅ、女御江白銀貳拾枚ヅ、女院御所江同断、

尾張中將殿

水戸少將殿

右者禁裏江

御大刀御馬代黄金中將殿一枚、女御江白銀十枚ヅ、